

# 新年特集



新年のスタートにあたり、声を寄せてくれた恵庭の子どもたち。そして、いつもえにわ子ども新聞を応援してくださっている方々の、新春メッセージです。**笑顔いっぱい的一年に!**

恵庭市教育委員会  
教育長 松本博樹  
『今日も笑顔で明るい挨拶』これが私のモットーです。  
新しい年を迎えまして、新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。新年といえは正月ですね。私の子どもの頃のお正月のあそび」の思い出を紹介します。

家の中では、かるたやすごろく。百人一首では「...乙女の姿し...」とどめん(む)の札にみんなが集中し、いろはかるたでは「犬も歩けば棒にあたる...」などのことわざを覚えるのに役立ちました。すぐろくでは、あがり直前で

れぞれ伝統的な意味合いがあります。子どもの成長や豊作を祈願するこれらの遊びを目にする機会もめつくりと減りました。しかしながら、年の初めに家族みんなで笑いながら今年一年の明るい未来を願う、時代を超えて受け継がれてきた伝統的なお正月を今の子どもたちにも伝えていきたいものです。

今、恵庭の子どもたちは、何事にも積極的にチャレンジして「やる気いっぱい・やさしい」です。恵庭の誇りです。大好きです。子どもたちが笑顔で健やかに育ちますように、お家のかたがた、地域のかたがた、どうかお力添えをくださいますように。

あなたも笑顔だと、みんなも笑顔になります。2011年「笑顔いっぱい」の1年にしよう!

私の願い  
松小2年 森山芽衣  
一輪車が上手になつてショーに出たいな。正月はスキーをたくさんしましす!

私の小さい頃  
恵庭RBP(株)代表取締役社長 博士・技術経営 竹川勝雄  
私が生まれる数カ月前に、父は召集令状により戦地に赴いた。その後、連軍が父の任地に侵入。捕虜としてシベリアに送られ、消息は分からずに数年が過ぎた。当時はよくある話だったようだ。だから、父の顔、父の庇護も知らないままに小学校に入り、その後、父は復員した。父が抑留されている間、母は実家の寺に戻り、境内の庵で私と姉を、教員をして育てていた。そして、優しいが厳しくも

増えるようになると良いなあ。家族が健康で元気に一年無事に過ごせること。景気回復。【唯ママ】

あつた祖父父母がいた。それでも、私は何かしら寂しく物悲しさを感じていた。小川のせせらぎ、花々、そして、昆虫を飽きずに眺めていたその頃の自分の姿が今でも時折目に浮かぶ。そして、その情景が懐かしく思い出されると、不思議なことに、多少の辛さなら忘れさせてくれる。歌詞で「涙の数ほど強くなれるよ」というのを耳にした。勉強でも運動でも、打ち込んで負けん気を出して一生懸命競走したほうがいい。しかし、人には優しくした方がいい。そして、質の高い芸術に触れたほうがいい。恵庭市内の美しい眺めを脳裏に焼き付けるのもいい。楽しい良い思い出が、辛い時にきつと貴方を励ましてくれるから。

今年の目標  
柏小4年 三平希美  
今年風邪をひかないように気をつけて、元気に過ごしたいと思います。

2011年の子どもたちへ  
恵庭ガイアシンフォニーを上映する会 本多健児  
子どもたちに望むことは、友達や年齢の違う子ども同士で外で遊ぶことです。最近、外で遊ぶ子どもたちが遊んでいる姿をあまり見かけなくなりました。塾かゲームか学校の部活なのか分からないが、子どもの姿が見えないのが寂しさを感じます。子ども同士で遊ぶことで、上下関係、競争心、仲間意識、危険なこと、怪我をしたり、遊び方の工夫を学びます。身体で覚えたことは大人になっても役に立つし、生きる力になり少しぐらいの失敗やくじけに対して乗り越えられる力になります。

今年の目標  
柏小4年 加藤拓海  
生活をしていので、今年はややんと安定した生活をして、けがや事故にあわないよう気をつけま

これからは、社会の変化に柔軟に対応できることができるのが大切で、人

連載コラム1月  
お正月って、おとなになつても、どうしてこんなにワクワクするのだろうか。不思議に思います。お正月の料理のどれも、自分の好物ばかりだからでしょうか。お雑煮、お煮しめ、なます、ダテマキ、カズノコ。なかでもカズノコは、「チヨ」のつくほどの好物です。1年に1回だけ、お魚屋さんで「塩力ズノコ」を「ダハ」して買って、家に持って帰ります。家には、書きをもったエライ人がいて、この人の許可がないといけません。1年に1度の「ダハン」だから大目にみてもらえるのです。何日か水に浸けて塩をぬき、表面をおおって取るのぞき、そのあとダシ汁に漬けてこみます。

こねて、「来年からはカズノコなし」と言われては困るので、じつとがまんします。大晦日の夜、家族は年がかわる時刻まで起きているようです。こちらは毎年、8時には眠ります。朝は、だれよりも早く、暗いうちからベッドを抜けだし、お雑煮のダシをあわせたりしているのです。とうとうたまらなくなつて、カズノコをひとつの半分だけ失敬して味見です。ポリポリ、ププチ。ああ、おいしいな、と天にも昇る心地がします。そして、そのあと、日本酒をオチヨコに一杯……。お正月は、ふだんできないことができるのです。元旦の朝は、おいしくて、ちよっぴりスリリングです。ワクワクするのは、そのせいでしょう。

【森厚(もりあつし)】  
苦小牧市生まれ。第2回とまみん文学賞、第47回地上文学賞、そして、小説「TAKARA」で第52回農民文学賞を受賞。道新文化センター(札幌)『教室で仕あげる掌篇小说講座』座を担当。

3ページへつづく

